

金玉山雙林寺もみじ一隅の会

もみじ通信

新春薬師如来祈願護摩供が厳修されました

元旦から1月4日にかけて、新春薬師如来祈願護摩供が厳修されました。厳寒の中、計5座も護摩を修して下さったご住職様、ありがとうございました。

3日のお昼過ぎには、毎年お正月にお薬師様に参拝に来られるというご家族がお見えになりました。今年は厄年だとのことで、ご住職様の経頭の下、全員で般若心経をお唱えしました。知らない者どうしが互いの幸せのためにお勤めができたのは素晴らしいことだと思います。

4日のお護摩では、もみじの会の皆様に授与される御札をお薬師様の浄火にかざしてお加持が行われました。家内安全や交通安全、開運招福



を祈願した御札です。今年一年、会員の皆様が無事息災に過ごされますよう世話人一同も祈念しております。(石本 政人)

節分会日数心経が無事に終了しました

二月三日は節分の日。この日雙林寺では「節分会日数心経会」が行われました。立春を控えて一年の息災、万民法楽などのお願いごとを、般若心経を一年の日数分読誦して祈ろうというものです。

この日は朝から天候は荒れ模様でしたが、総勢十一名が参加し厳粛な中にもどこか和やかなムードで会は進みました。はじめに和尚さまより「今日は自分のことを祈るのではなく、ひとつ大いなるものになったつもりで全体のことを祈ってください」とのお話を頂き、よし！頑張るぞ、とそれぞれ



れの決心と共に読経開始です。今回は参加者が交代で経頭を勤めました。毎日のお勤めの際に般若心経は読んでも、一日にこんなにたくさん読むことはありません。最初は足が痺れて痛いとか、息が続かないとか雑念に振り回されますが、回数を重ねるごとにそれも消えて「今年一年も皆さんが息災で暮らせませうように」と祈りながら読むことができるようになりました。途中で昼食を挟み、一時間ごとに休憩をとりつつ夕方に

は無事に満願することができました。最後の方になると皆慣れてよく声が出るようになったせい、本堂いっぱい読経の声が響き渡るのがお香のかおりと相俟ってかなり感動的な光景となりました。

短いだけにサラリと読めてしまう般若心経ですが、こうして一年に一度は繰り返し読んで、改めてお経文の意を心に刻み直すのも大切なことだと思います。(上原 ふじ子)

春の彼岸会が執り行われました

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、とても暖かな春の彼岸の日、鶯の鳴き声が響くここ双林寺にて、もみじの会の皆様のご先祖様のご回向を住職のもと修させて頂きました。

厳かな阿弥陀経が唱えられる中に、各ご先祖様は極楽浄土に往生された事と思います。

住職より、『お彼岸とは、春分の日、秋分の日を中日として、前後3日間の計7日間行われます。本来、彼岸とは‘迷いの世界’にあるこの世「此岸」から‘悟りの世界’「彼岸」に至るという意味があります。つまり、欲や執着の離れた世界に渡るため、仏道に精進しましょうという期間なのです。また、春分の日、秋分の日、太陽が真東から上り、真西に沈むところから、阿弥陀様がいらっしゃる西の世界、西方浄土を思い浮かべるといふ日本の祖霊崇拝が結びついて、ご先祖さまを偲ぶ日ともなりました。なので、このお彼岸には、ぜひとも、ご先



祖さまを偲びお墓参りに行っていただいて、日ごろの感謝、また自分が今あることをご先祖様に感謝申し上げ、それと共に、「彼岸」に渡れるように仏道に精進して行って頂きたい。」とお話を頂戴しました。

例え小さな取り組みであっても、忘故利他・一隅を照らす実践を積み重ねさせていただきます。(野竿 陽子)

オリジナル勤行儀が出来ました

雙林寺の勤行儀が完成しました。文字の大きさから紙の質、表紙の色にまで、凝りに凝ったオリジナルの勤行儀です。表面には薬師護摩の、裏面には十一面観音護摩の勤行儀が印刷されており、一冊で雙林寺の全てのお勤めに対応できるようになっています。本堂に3部ございますので、ご参拝の際はぜひ手にとってご覧ください。

私が勤行儀の製作を思い立ったのは、昨年3月のことでした。和讃の練習をするつもりで和尚様に送っていただいたWordファイルを見て、「これをジャバラ式に折って表紙をつければ勤行儀になるのではないか？」と思ったのです。ご住職様に相談したところ、「それはうちの仏様があなたに頼まれたのに違いない。ぜひ作ってください」と快諾をいただきました。

それ以来、半年以上の試行錯誤を繰り返すことになりました。紙の折り目に文字が来ないようにレイアウト方法、紙の切り方、折り方など、何度も失敗を繰り返しながら最善の方法を探り当てていきました。雙林寺にこのような形で貢献できることをう



れしく思うと同時に、模型飛行機を作っているようで、とても楽しかったです。素晴らしい機会をくださった仏様とご住職様、そして原稿の入力やチェックにご協力くださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

今後少しずつ同じものを作成し、秋のもみじまつりの頃までには計20部程度を揃える予定です。この勤行儀で皆様とお勤めができることを楽しみにしています。(石本 政人)

信徒紹介

今号より、会員の方にお一人ずつ寄稿していただくことになりました。仏様の教えや雙林寺との出会い、日々の暮らしの中で感じたことや将来の夢など、自由に綴っていただきます。今回は吉田真子さんです。

みなさま、ごきげんよう、会員番号四番のまさこです。

四番につきましては『よく修行するの四ですね』とおっしゃってくださった方がいらしたそうで、光栄で

ございます。

私と雙林寺の出会いのきっかけは『聖天さま』であります。

かねてより聖天さまを信心しておりましたが、ネットで

まさこ
吉田 真子

パンチさまを知り、お顔まで掲載されているので安心だろうと思ってお参りしたのが平成18年1月16日のことでした。

十一面さまの護摩供という、初めて聞く行事に吸い寄せられるように伺いますと、お大黒さまが看板を持って現れました。『たしかに厳修されるのかわ』

皆様おなじみのあの坂道をせっせと歩きながら、まだ見ぬ世界にわくわくしました。

そしてお堂にあがらせていただき、お薬師さまにご挨拶をして、その右手を見ると・・・あやしげな簾が下がり、そしておお、大根の幕が！間違いない！

大根や巾着を目にすると興奮する私はお念珠を取り出し一心にご真言をお称えしておりましたのでございます。すると「ご無沙汰しております。」と真面目そうな僧侶の方のお声が。「いえ、初めてなんですけど。」これがパンチさまとの出会いでした。

そして、お護摩が始まりますと途中でもう一人僧侶が現れ、右奥に消えていきました。どなただか、おわかりですね？ そしてお護摩のあとは、初対面というに長々とお話しをさせていただき、そこに宗派を越えた『仏さまの世界』

を見出したのであります。

2年前のあの日の感動は今も鮮やかに脳裏に刻まれています。

さて、聖天信仰といいますと『現世利益』でありまして、先祖供養等は積極的でない、という印象がありましたが、必ずしもそうではない、ということがわかってきました。むしろ、避けてはいけません。ご先祖さまが、自分がある。

ご先祖さまの供養が十分にされており安泰であれば、なんの障碍もないことになり自分の望みも通りやすいと思うのです。供養がなおざりにされていると、それをカバーするだけの『何か』が自分に付加されるように思います。

なんでも叶えていただける

なんて素晴らしいことでしょう。

そして、なんと恐ろしいことでしょう。

分不相応なお願いをしてそれが叶ってしまったら、自分の能力を超えたものが押し寄せ、苦しくなってしまうことでしょう。

供養を求めるご先祖さまを無視して無理やり希望を通してしまったら、どこかにひずみが出て、継続していくのがとてつもなく困難な事になるのだと思うのです。

無理なく、スムーズに道をつけていただこうと思ったら、常日頃から精進しておかなくては、あとが辛いと思うのです。

よしよし、色々と頑張っておるな。

とニコニコしていただけるような状態であるのなら『ほいっ』とご褒美をいただくように願い事は叶うのではないのでしょうか。

生まれてきたことに感謝

ご先祖さまがあつて自分があることに感謝

今日一日無事に過ごせて感謝

先月はお彼岸でしたね。

でも、この時期だけでなくご先祖さまに感謝して全てに感謝して、聖天さま、そして神さま仏さまにニコニコして見守っていただけるようになりましょう。

私たちは雙林寺で出会った仲間です。

出会ったご縁に感謝して、明るい仲間でありたいです。

私達の幸せはニコニコの上にあると思います。



観能の会

去る3月22日、お陰様を持ちまして、第一回もみじの会「観能の会」が無事終了致しました。ご参加下さいました皆さま、誠に有り難う御座いました。今回の企画、遠くは名古屋の会員さん、また会員さんではないのですが、ご参加下さった方を含め、計4名の皆さまがご参加下さいました。皆さん、能を観るのは初めての方ばかりでしたが、当日は天候にも恵まれ、無事終わって、今はホッとしております。流石に皆さん、口々に難しいと云うご感想でしたが、これに懲りずにまた能をご覧頂ければ幸いに御座います。

一つ目の演目「清経・替之型」。僕自身、生の能舞台を観るのは久々でしたので、また「清経」と云う曲はめっちゃ好きな曲で、内心わくわくしながら舞台に見入りました。最初、ワキ(脇役)が出て、これから始まるストーリーのきっかけが述べられます。「うんうん、なかなか上手いじゃん。いい感じじゃん!」。段々に舞台空間の密度が高められ、いよいよシテ(主人公)のお出まし。そして次々と舞台上でストーリーが展開されて行きました。でも、ふと気が付くとお隣の方、なにやら舟を漕いでおられるご様子。「今、いい処なのに～」って



思いながら(泣)、、、、。

その後の狂言は分かりやすく、また面白く、僕を含め、皆さんゲラゲラと爆笑。「楽しんで頂けたかな! ?良かった!良かった!」。その次の能もやはり最初と同じく難しく、中々取っつき難そうなご様子でした。

そんなこんなので、ほぼ定刻通り、全ての演目が終わり、「観能の会」も無事終了しました。その後は某もみじの会会員さまのお誕生日祝いと今日のお疲れを兼ねて、酒宴を持ち、春の一日は過ぎて行きました。

と云う事で、今回は「狂言を観る会」にしようかと密かに思っ居る青湖で御座います(笑)。

(小寺 利文)

比叡山団体参拝のお知らせ

5月の連休に本山参拝ツアーを企画したいと考えております。G・Wの真っ直中、近江路を散策しながら、古人の足跡を辿ってみませんか! ? まだ検討段階ではありますが、根本中堂始め、無動谷、更には足を延ばして日吉大社、西教寺とか散策出来ればと存じます。皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。 [詳細は雙林寺のホームページでご確認ください。](#) (小寺 利文)

日時	平成20年5月4日(日) 午前10時半 雙林寺に集合
費用	昼食代、交通費等
交通	参加人数により検討
申込	事前に雙林寺のホームページで参加申込をしてください。
その他	参拝終了後、京都市内で懇親会を予定しています。

法話「祈りについて」

住職 野竿 智敬

みなさんこんにちは。「雙林寺もみじ一隅の会」が発足しておよそ半年が過ぎました。おかげで、小さいお堂ながら、仏法僧の揃った充実のお寺になってきました。日曜日の護摩には、必ずどなたかがお参りになり、熱心にお勤めされるようになりました。

お勤めにはいろいろな方法がありますが、どれもその心は祈りです。

たまに「祈り方」を尋ねられますが、心のことですから、手を合わせる姿は見えても本当のところは見えません。そこをどう表現すればいいのか難しいところですが、それは「ああなりたいとか」、「こうであってほしい」ということを想像したり、念じたりすることだと思います。

例えばクルマが欲しいのであれば、具体的にどんな形で乗り心地はこんなものと、実際に自分が所有して運転しているところを夢見てみます。病気の方は病気のことを忘れて、健康な自分を想像するのはです。誰かと仲直りしたい場合は相手と握手している姿を思い描いてみます。とにかく、どんな風になりたいのか、どんな風でありたいのか、具体的に想像して念じて、仏さまに伝えてください。でないと、仏さまもどうすればいいのかわからないと思います。

ただし、祈ってもご利益がないかもしれませんし、また、思った通りにならないかもしれません。その時は、そうならないと仏さまがストップをかけておられると解釈してあきらめましょう。或いは、祈り方がまちがっているのかもしれません。

それから、願いが叶えば「感謝」です。「祈り」と「感謝」はセットものです。仏さまに感謝するのはもちろんのことですが、周りの人の関わりやおかげもあって、その願いは叶ったはずです。誰かに助けていただいたら、「ありがとう」と言葉をかけて、お返しをする。物のプレゼントではなくても、にこにこ優しく接することでも大丈夫です。

そうやって仏さまを中心に、大勢の人たちのおかげで私たちは暮らしているということを再認識してもらいたいものです。



編集後記

多くの方々からご尽力を賜り、無事、会報第二号発行の運びとなりました。短い期間で原稿を執筆してくださった皆様、ありがとうございます。私がこの文章を書いている4月1日、東京では桜が満開です。電車の中には新社会人と思われる人も多く、街全体がフレッシュな空気に満ちています。私自身もこの新鮮な心持ちを忘れることなく、仕事であれ仏教や勉学のことであれ、日々精進を続けていきたいものだと思います。（石本 政人）